

1 題材名 「歌舞伎とオペラの音楽の特徴を比較して、多様な音楽のよさや美しさを味わおう」

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は、歌唱や音楽を鑑賞することなど音楽科の様々な諸活動に興味関心をもっており、全体的に学習に対して前向きな姿勢である。また、全教科を通じてグループによる活動を取り入れているため、意見交換や話し合い活動は活発である。1年次に学習した「雅楽」と「魔王」では、我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴を意識して鑑賞に取り組んだが、音楽の特徴を見付けられないことや、聴きとった音楽が自分にとってどのような価値があるのかについて評価することには課題が見られる。

(2) 題材設定の意図

本題材は、学習指導要領のB鑑賞ア(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)を指導するものとする。昔から今もなお演じられている総合芸術である日本の歌舞伎と西洋のオペラを比較鑑賞し、双方の音楽の共通点や相違点、また、その音楽だけに見られる固有性を理解して聴くことにより、それぞれの音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽の多様性について理解することをねらいとしている。鑑賞における音楽のよさを味わうとは、曲想を感じ取りながら音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、他者との関わりによって音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。

本題材では、授業の中でどのように「主体的な学び」をデザインするかを考え、生徒の「思考・判断・表現する力」を高めることにつながる効果的な聴取活動、グループ活動、ICTの活用を取り入れ、深い学びにつなげていきたい。また、本校の学校研究課題「主体的に発信できる生徒の育成～グループ活動の充実を通して埼玉県一を目指す～」を実現する力をこの題材を通して身につけさせたい。

3 題材の目標

- (1) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。〈知識及び技能〉
- (2) 音色・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚した音楽のよさや美しさを味わって聴く。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 声の音色や音の重なり方が生み出す我が国と西洋の音楽の雰囲気の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組み、我が国や西洋の総合芸術に親しむようにする。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

【聴取教材】

オペラ「アイダ」より「清きアイダ」 歌舞伎「勧進帳」長唄部分

【鑑賞教材】

- (1) オペラ「アイーダ」 作曲者 ジュゼッペ・ヴェルディ
 (2) 歌舞伎「勧進帳」 作曲者 三世並木五篁作詞／四世杵屋六三郎作曲／今藤政太郎採譜

5 学習指導要領の指導事項と [共通事項] ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	鑑賞ア (ウ) 鑑賞イ (ア) (イ) (ウ)
[共通事項] ア	音色・テクスチャ・旋律
イ	調・レガート・間・拍子
主な学習活動	我が国の伝統音楽と西洋の音楽を比較し、音楽の特徴や多様性を理解する。 オペラについて学び、その音楽の特徴について考え鑑賞する。 歌舞伎について学び、その他の芸術と関連付け理解して鑑賞する。 オペラと歌舞伎を比較し、音楽表現の共通性と固有性について考える。

6 評価規準 (題材の評価基準及び学習活動における具体的評価規準)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p>知①曲想と音楽の構造との関わりを感じ取っている。</p> <p>知②音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。</p> <p>知③我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p>	<p>思①音色・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思②音楽表現の共通性や固有性について考え音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態声の音色や音の重なり方が生み出す我が国と西洋の音楽の雰囲気の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
1時	知①	↓	態
2時	知②	↓	↓
3時		思①	
4時	知③		
5時		思①	↓
6時		思②	態

7 指導と評価の計画（6時間扱い）

	◆ねらい ○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<p>◆歌舞伎とオペラの音楽を比較し、その特徴から生まれる多様性を見つけよう。</p> <p>○我が国の音楽と西洋の音楽の特徴を聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長唄「勸進帳」の「旅の衣は篠懸の～」の部分とオペラ「アイーダ」の「清きアイーダ」の一部を聴き、それぞれがどの国の音楽（歌）なのか、なぜそのように思ったのか理由を考える。 ・それぞれの特徴を自分なりの言葉で表現する。 ・主に「声の音色」と「楽器や歌の音の重なり（テクスチュア）」について特徴を聴き取り、気付いたことや感じ取ったことをグループで共有する。 <p>○総合芸術について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合芸術の定義を知り、我が国の伝統音楽「歌舞伎」と西洋の「オペラ」がどちらも総合芸術であることを知る。 <p>○それぞれの音楽の特徴を聴き取り、共通点や相違点などを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点から音楽が多様であることを知り「音楽はなぜ多様なのか」について考え、自分の言葉でまとめる。 <p>○本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時からオペラと歌舞伎をそれぞれ学習することを知る。 	<p>○主に「声の音色」と「楽器や歌の音の重なり（テクスチュア）」について特徴を聴き取り気付いたことや感じ取ったことを意見交換できるようにする。</p> <p>○聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを表現できない生徒には、音色とテクスチュアが聴き取りやすい部分をもう一度聴かせ、どのような感じがしたのかをたずね、一緒に言葉にしながらワークシートに記入するように促す。</p> <p>☆歌舞伎とオペラを比較することで双方の音楽に関心をもち、仲間の意見を取り入れたり、自分の考えを積極的に伝えたりして鑑賞の学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>☆曲想と音楽の構造との関わりを感じ取っている。</p>
2	<p>◆オペラに親しみ、その音楽のよさや美しさを味わおう。</p> <p>○オペラの音楽や音色に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アイーダ」の2幕から凱旋の場を聴き、音楽の雰囲気からどのような場面を表現しているのかを想像する。 ・曲名、あらすじ、登場人物の関係を知る。 <p>○ストーリーの流れを確認しながら「清きアイーダ」「第2幕から「凱旋の場」の場面」「おお、わが祖国」「さらばこの世よ、涙の谷よ」を中心に鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の音色、歌い方、テクスチュアの動きの特徴をワークシートに記入する。 ・第2幕から「凱旋の場」の場面では、オーケストラのみの部分と、合唱が入った部分との違いに注目して聴き、気付いたことをワークシートに記入する。 <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○音楽の特徴に気付けない生徒には、仲間の意見を参考にさせたり、具体的な場面を想像させたりする。</p> <p>☆オペラの音楽の特徴について、音楽を形づくっている要素と関わらせて具体的に記述している。</p>
3	<p>○前時の続きを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の音色、歌い方、テクスチュアの動きの特徴をワークシートに記入する。 <p>○オペラの誕生と発展について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペラの歴史、舞台等、オペラに関わることを学ぶ。 <p>○オペラを構成する要素を理解する。</p>	<p>☆聴き取った音楽の特徴がどの音楽を形づくっている要素に関わるものなのかを理解して、感じ取ったことと要素との関わりを明確に自分の言葉で表現している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇、舞踊、美術のそれぞれが音楽とどのように結びついているのかを考える。 ○まとめをする。 ・「清きアイダ」「凱旋の場」「おお、わが祖国」「さらばこの世よ、涙の谷よ」の中で印象に残ったものを一つ選び、聴きとった声の音色、歌い方、テクスチュアを知覚・感受したこと、音楽のよさや美しさ、曲や演奏に対する評価とその根拠について考える。 ○本時の振り返りをする。 ・学んだことや感じたことをワークシートに記入する。 	<p>○部分的でも良いので聴き取ったことを記入できるようにする。表現できない生徒には、仲間の意見を参考にさせたり、教師が表現の仕方を例に出したりする。</p>
4	<p>◆歌舞伎「勸進帳」に親しみ、その音楽のよさや美しさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎への関心を高める。 ・歌舞伎について知っていることや思い描くイメージについて意見交流をする。 ○歌舞伎の成り立ちや特有の表現音楽について理解する。 ・生徒の意見と比較しながら舞台の様子及び音や音楽に注意して、歌舞伎「勸進帳」の「詰め寄り」の一部を鑑賞する。 ・気付いたことをグループで話し合い、全体で共有することで多様な視点を共有する。 ・歌舞伎の成り立ちや特有の表現、舞台の工夫などについて教科書の説明や映像資料を視聴し、ワークシートにまとめる。 ・全体のあらすじにも触れる。 ○本時の振り返りをする。 ・学んだことや感じたことをワークシートに記入する。 	<p>☆歌舞伎の音楽の特徴について、音楽を形づくっている要素と関わらせて具体的に記述している。</p> <p>○音楽の特徴に気付けない生徒には、仲間の意見を参考にさせたり、具体的な場面を想像させたりする。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心をもち、声の音色やテクスチュアを知覚・感受しながら、歌舞伎のよさや美しさを味わって聴く。 ・場面1～5の情景と音楽の関わりについて意識しながら鑑賞する。 ・長唄の特徴や長唄が場面の情景をどのように効果的に表現しているのかをまとめていく。 ○本時の振り返りをする。 ・学んだことや感じたことをワークシートに記入する。 	<p>☆聴き取った音楽の特徴がどの音楽を形づくっている要素に関わるものなのかを理解して、感じ取ったことと要素との関わりを明確に自分の言葉で表現している。</p> <p>○部分的でも良いので聴き取ったことを記入できるようにする。表現できない生徒には、仲間の意見を参考にさせたり、教師が表現の仕方を例に出したりする。</p>
6 本時	<p>◆音楽表現の「共通性」や「固有性」について考え、音楽の多様性について理解し、よさや美しさを味わって聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎とオペラの共通点と固有性を振り返る。 ・ベン図を用いて共通点と相違点をまとめる。 ・1時間目で聴き取った特徴を思い出し、それを踏まえて理解する。 	<p>○これまでの学習を振り返らせたり、仲間の意見を参考にさせたりして、歌舞伎とオペラの音楽の特徴を比べさせる。</p>

<p>○グループになり、「声の音色」と「音の重なり」に着目して音楽表現の共通性や固有性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有し、まとめる。 <p>○音楽表現の共通性や固有性を学んで、どんな音楽の良さや美しさを味わうことが出来るのか考える。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の共通性や固有性について考え、多様性を理解して鑑賞したことで気付いたことや感じたことをまとめる。 	<p>☆これまでの学習を生かしながら、歌舞伎とオペラ双方のよさについて触れ、多様な総合芸術の魅力について自分の言葉で明確に述べている。</p> <p>○魅力を味わえない生徒には、まず歌舞伎とオペラのどちらか一方についてのよさについて考えながら聴くように促す。</p> <p>☆歌舞伎とオペラを比較することで双方の音楽に関心を持ち、仲間の意見を取り入れたり、自分の考えを積極的に伝えたりして鑑賞の学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○主体的に学習に取り組めない生徒には、グループ活動で仲間の意見のよいところをメモさせたり、歌舞伎とオペラの好きなところなどを見つけさせたりして関心を高めさせる。</p>
---	--

8 本時の学習指導（6／6）

（1）本時の目標

- 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。〈知識〉
- 音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。〈思考力、判断力、表現力等〉

（2）展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的な評価規準〈評価方法・手立て〉
<p>○歌舞伎とオペラの共通点と、それぞれの固有性について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベン図を用いて共通点と相違点をまとめる。 ・1時間目で聴き取った特徴を思い出し、それを踏まえて理解する。 ・全体で共有し、「声の音色」と「音の重なり」に関わることを取り出してまとめる。 	<p>○これまでのワークシートを見ながら記入させ、この時点では音楽に関すること以外（衣装や舞台装置など）についても記入してよいこととする。</p> <p>○日本の伝統的な発声法と、西洋音楽の発声法の違いに気づけるようにする。</p> <p>○全体で共有した後、「声の音色」に関することは赤で「音の重なり」に関することは青で囲むように指示し、違いに気づけるようにする。</p>
<p>【本時の課題】 音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の多様性について理解し、よさや美しさを味わって聴こう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、音楽表現に関わって歌舞伎とオペラを比較し、共通性や固有性を 	<p>○グループ活動用のワークシートを配付し、主に「声の音色」と「音の重なり」に関わって比較させる。</p>

<p>模造紙にまとめる。</p> <p>○音楽表現の共通性や固有性を学んで、どんな音楽の良さや美しさを味わうことが出来るのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに模造紙を使って発表し、全体で共有する。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の共通性や固有性について考え、多様性を理解して鑑賞したことで気付いたことや感じたことを自分の言葉でまとめる。 <p>○次時の活動で共有することを伝える。</p>	<p>○なぜこのような共通性や固有性が生まれるのかについて目を向けさせるようにする。</p> <p>○1時間目で考えたことを振り返りながら、これまでの学習を生かして考えられるようにする。</p> <p>○グループごとに発表させ、仲間の意見に耳を傾けることにより、多様な音楽のよさや美しさに気付けるようにする。</p> <p>○タブレット端末で音源を聴けるようにしておき、個人で比較聴取させながら記入できるようにする。</p> <p>☆態〈観察・ワークシート〉</p> <p>声の音色や音の重なり方が生み出す我が国と西洋の音楽の雰囲気の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>☆思②〈観察・ワークシート〉</p> <p>音楽表現の共通性や固有性について考え音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>《「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント》</p> <p>音楽の特徴とその特徴から生まれる多様性について、よさや美しさ、音楽表現の共通性や固有性について、自分の考えを書いているか。</p> <p>《「十分満足できる」状況（A）と判断する状況の例》</p> <p>「音楽は国や地域、世代や時代を超えて、様々な人に愛され続けたからこそ現代まで受け継がれていることや、それぞれの国の人たちがそれぞれの伝統を受け継いで文化を大切にしていると感じた。また、声や音（楽器）の種類がたくさんあることで新しい音楽ができ、曲に飽きがこないのも特徴の一つだと思った。」と、これまでの学習から共通性を捉えている。</p> <p>《「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例》</p> <p>生徒の状況に合わせて、スモールステップで問われている内容の理解を促す。また、他者の意見や板書の内容を取り入れるなどして、自分の考えが書けるように促す。</p>
--	---

9 備考

- ・黒板には本時の課題、音楽を形づくっている要素である【音色】・【テクスチャ】を貼っておく。
- ・グループの意見をまとめる模造紙と、黒のマーカーを用意しておく。

